

[川崎重工業] (7012) 企業分析レポート | 作成日 : 2026年04月02日

【直近5年の業績推移】

決算期	売上高 (百万円)	営業益 (百万円)	経常益 (百万円)	EPS (円)	配当金 (円)	寸評
2022.03	1,500,879.0	45,805.0	27,670.0	15.1	8.0	収益回復の初動
2023.03	1,725,609.0		70,349.0	63.3	18.0	利益水準が改善
2024.03	1,849,287.0		31,980.0	30.3	10.0	利益が一服
2025.03	2,129,321.0		107,518.0	105.1	30.0	過去最高益更新
2026.03予	2,340,000.0		122,000.0	107.7	33.2	増収基調を継続

【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF (百万円)	投資CF (百万円)	財務CF (百万円)	現金残高 (百万円)	自己資本比率 (%)
2023.03	23,617.0	-77,457.0	85,305.0	138,420.0	23.4
2024.03	31,662.0	-89,814.0	12,911.0	84,153.0	23.7
2025.03	148,943.0	-111,201.0	9,605.0	132,776.0	23.3

【財務コメント】

2025.03は営業CFが大きく改善し、投資CFの支出を吸収してフリーCFがプラスへ転換した。現金残高も回復した一方、自己資本比率は23%台で推移しており、大型案件や投資負担を抱える重工業らしい財務運営が続いている。

【会社概要】

川崎重工業は、輸送用機器を中核にしながら、航空宇宙、防衛、エネルギー、船舶、鉄道車両、産業機械など幅広い分野を展開する総合重工業メーカーである。大型案件や社会インフラに関わる事業比率が高く、景気循環の影響を受けつつも、国策や長期需要との結び付きが強い企業構造を持つ。

【歴史】

同社の源流は造船事業にあり、そこから船舶、鉄道車両、航空機、エネルギー機械へと事業領域を広げてきた。日本の重工業発展と歩調を合わせながら、民需と官需の両面で事業基盤を拡大してきた点が特徴である。近年は防衛、航空宇宙、水素関連など次世代テーマとの接点が強まっている。

【立ち位置】

川崎重工業は、重工大手の中でも輸送機械と国家インフラ案件の接点が高い位置にある。防衛、航空宇宙、エネルギー転換、水素サプライチェーンなど複数テーマにまたがるため、単一分野依存ではないのが強みだね。一方で、案件の大型化と収益認識のタイムラグがあるため、業績の見え方には期ごとの振れも出やすい立場にある。

【見解】

中長期的には、防衛・航空宇宙・GX(水素)といった分野への関与を背景に、国家インフラ的な役割を担う企業としての位置付けが強まりつつあると考えられる。大型案件の積み上がりや長期契約の増加により、収益構造は徐々にストック型へと近づく可能性がある。一方で、案件の進捗やコスト管理、為替など外部環境の影響を受けやすく、利益の変動幅は引き続き大きくなる可能性もある。

【株価・市場情報】（2026年04月02日）

株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
3,128.0	29.0	3.24	1.06	13.11	26,262.0

【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億円)	特徴
三菱重工業	4,711.0	60.88	5.97	150,000.0	総合重機最大手。防衛・エネルギー・航空宇宙で高い存在感
IHI	3,380.0	28.67	6.36	36,600.0	航空エンジン主力。エネルギー・防衛にも展開
カヤバ	4,260.0	6.92	0.80	2,149.0	油圧機器大手。建機・自動車向けで安定収益
日本車両	3,515.0	6.34	0.69	515.0	鉄道車両中心。インフラ関連に強み

【投資成功シナリオ】

防衛需要の拡大やエネルギー転換の進展により、大型案件の受注が継続的に積み上がることで、収益の安定性と成長性が同時に評価される展開が考えられる。また、航空宇宙や水素関連など複数分野での技術活用が進むことで、単なる製造業からインフラ型企业への再評価が進む可能性もある。市場の評価軸が変化すれば、長期資金の流入が継続する構造も想定される。

【投資失敗シナリオ】

大型案件の遅延やコスト増加により、収益が想定通りに積み上がらない場合、評価の見直しが進む可能性がある。また、防衛やエネルギー政策の変化によって需要の前提が揺らぐ場合、中期的な期待が後退するリスクもある。加えて、為替や資材価格の変動が利益を圧迫する局面では、業績の振れが市場評価に影響を与える可能性がある。

【メモ】

防衛・GX・航空宇宙の複数テーマに跨る点が特徴。流動性の高さやボラティリティ上昇が同時に観測されており、需給変化の初期段階にある可能性。今後は受注動向と利益率の推移を継続確認。